

第5回こんな長崎どがんです会（令和5年11月16日）

テーマ：大村湾周辺地域の広域周遊による観光消費額増加の実現に向けて

参加者：7人（海運・宿泊事業者、観光アドバイザー、観光まちづくり実践者、飲食業者、体験受入実践者、漁業協同組合、観光協会）

主な意見	対応状況
<p>【地域間連携の重要性について】</p> <ul style="list-style-type: none">・大村湾周辺地域にはインパクトのある観光スポットがないので、各自治体が連携した方がよい。・各地域のキーパーソンたちを巻き込み、アイデアを提案できる場を設けたほうがよい。・県の役割として、周辺自治体をまとめる・つなぐという視点も大切。・他の市町と同じことはできないので、それぞれの地域の役割を果たすべき。・大村湾サイクルージング事業の中で、それぞれの関係者がどの役割を担っているのか認識することが大切。	<p>県の主な役割は、県が持つ広域的視点や調整機能を活用し、市町や民間事業者の連携の機会を設けることであると認識しており、各自治体や地域の方からのご意見やアイデアを取り入れながら、大村湾サイクルージング事業を進めてまいります。</p>
<p>【効果的な情報発信について】</p> <ul style="list-style-type: none">・“大村湾にしかない”強みや特色をPRした方がよい。・各地域の特色を活かしたここでしか体験できない”プラス”を各地域でPRした方がよい。・外に向けてのみ発信するのではなく、地元の方が観光メニューを体験し、知ってもらうことも重要。・体験メニューに参加した方から、自発的に情報発信するような仕組みも必要。・年代や性別にかかわらず個人によって利用するSNSのツールは異なるので、ある程度網羅的に発信した方がよい。	<p>いただいたご意見を参考に、県外の方だけでなく地元の方にも知ってもらい発信していただくための工夫やSNSを活用した情報発信など、効果的な誘客プロモーションを積極的に行ってまいります。</p>
<p>【観光消費額増加の手法について】</p> <ul style="list-style-type: none">・農作物の収穫体験で終わるのではなく、収穫したものを加工することにより商品の単価が上がる。・物を作る体験があれば、お土産代としてもお金が落ち、さらに、作ったものを持ち帰り、旅の記憶を思い出すことでリピーターにつながる可能性もある。・地域の特色を生かした質の高い体験やお土産品の開発が進めば、観光客の満足度が高まり地域にお金が落ちる。	<p>いただいたご意見を参考に、引き続き、市町や観光連盟と連携して、より質の高い観光コンテンツの造成を支援することにより、来訪する観光客の満足度を高め、大村湾周辺地域の観光消費額増加につなげてまいります。</p>